

# 商人と科學的知識

社長 オブアーツ 星

一

自分は未だ修養の足りない微力な者ではあるが、常に眞理の忠僕として自分の力の及ぶ限り親切を實行しやうと力めてゐるのである。自分の本職使命を遂行し而してこれによつて社會に對する親切即ち所謂社會奉仕を完うするに就ては少くも五年後十年後の計謀も立てて行かねばならないので、自分は本社(資本金武千萬圓星製藥株式會社)の創立當初から、ひそかに學校の設立を望み、そうして遂に今日に至つて商科大學部長佐野法學博士を顧問とし、専門學者を講師とする所の星製藥商業學校なるものを設立するに至つたのである。これは苟くも我が製藥業に従事する者に對して衛生及び藥劑治病の知識を始め商店の經營其の他の事務に就て科學を基礎とする教育を施す目的に由るのである。本誌上には此の學校の事に就て詳しく述べる必要はないから省くことにするが、自分は今日の一般商人が單に目前の利を趨ふて遠大の希望を缺き、そうして且つ凡てに亘り單に過去の因襲と經驗のみを重んじて日なきが如き情態を甚だ物足りなく思ふのである。何となれば斯かる遣り方

では決して將來の進歩發達は望まれぬのみならず、時勢の進運に伴ひ得ない結果として遂に商業の不振を來すことになるからである。是れ實に國家の爲に憂ふべきことではないか。

つら／＼多くの人の爲す所を見ると時勢の進展若くは還境の影響を受けて餘儀なく改良を圖るといふ者がある。斯くの如きは舊體依然として何の改良進歩をも圖らない者に比べて良い方であるが、然しそんな事では後手を引くといふもので遂に敗北を免れない。凡て事を行ふには少くも五年、十年の後を見越して豫めそれに備へるやう準備計畫を整へなければならぬ。殊に

## 東宮の御見學と我等國民の覺悟

易學研究者 乾坤道士

今後の日本は歐米諸國の影響を受けて變化も激烈になるのであるから、今に於て將來の大計を立てなければいざとなつて間に合はないのである。これが爲めには人物の養成が最も必要であつて、其の養成法も凡て科學的知識を基礎として物事を行ふやうでなければならぬ。何となれば凡ての能率増進は科學の力にまたなければ其の十分を望むとは出来ないものである。容との取引や商品陳列の如きにしても單に自分の經驗や好き嫌ひでやつたのでは往々自己流儀に流れて其の目的を果し得ないことにもなる。

商業従事者に斯かる教養を授けることは一時或は多大の費用もかかるか知れないけれど、凡て目前の利を事とし、五年十年後の計畫を立てないものは繁榮せずして遂に衰頹を免れないのである。

也(貞者華之幹也)と言ふてある。これを備へては人倫に配して仁と禮と義と智の四つとし、二徳(孝)學上では善と美と利と眞の四つに割り當てる。さて此の「乾」道を行ふには自から順序もあり又方法もある。これを易では六爻に分けて時と位の上から説明してある。初爻は「潜龍勿用」であつて、何事を行ふにも先づ最初、んと忍耐し修養し準備し計畫し洗練することを意味する。かくて修養洗練を経た後には第二爻「見龍田」にあり、大人を見るに「利」といふこととなるのだが、此の場合に努めて大人に接見し、其の感化指導を受けて實際の學問をするのである。我が皇太子殿下はよく乾道を體せられて首よく第二爻までの業を終えさせられた。殿下の御修學中非常に御聰慧に渡らせられ、御勉學御運動共に御職遊ばされたことは申すも畏い。而して今や御見學によつて「德施普」を致されたのである。是れよりして殿下が第二の聖徳太子として、終日乾々大政を輔佐せらるゝことによつて「乾道乃革」第二爻新は實現せらるべく、而して將來天位を履するに於ては、又よく建國の理想を發揮せられ、萬民鼓舞するであらう。唯だ輪廻の任にあるもの、必ず御聖明を蔽ふことなきやう、今から大いに注意せねばならぬ。

右に就て我が國民はよく「乾」道を體し、常に世界人類の福祉に盡し(元)、世界の平和と國際間の交誼を好くし(亨)、商業の發達と貿易の隆昌を圖り(利)、而して飽くまでも我が國體の精華を重んじ(貞)なければならぬ。是れ我が王道を普く天下に敷く所以である。